

# 山梨のがん医療に対する県民の認識－公開講座来場者アンケート結果報告書

山梨がんフォーラム実行委員会 若尾直子（山梨まんまくらぶ）

福井里美（首都大学東京健康福祉学部）

## 1. 回答者の背景

230 名の方からアンケートの回答をいただきました。230 名の居住地は、県外 14 名、県内 216 名であり、今回は県民 216 名を分析対象としました。216 名の内訳は、男性 30 名（13.9%）、女性 186 名（86.1%）と女性がほとんどをしめています。また年齢層（図 1）は、30 歳以下が 28 名（13.9%）、30 歳～60 歳が 147 名（67.8%）、61 歳以上 40 名（17.8%）、がん医療とのかかわり（図 2）では、患者・体験者 12 名（5.7%）、がん患者家族・遺族 78 名（37.4%）、現時点ではがんとのかかわりはない 121 名（54.8%）であった。つまり、約 7 割が 30 歳～60 歳の働き盛りの世代であり、また全体の約 6 割は、現時点ではがんとのかかわりのない一般市民が占めています。また居住地は、中北（甲府市周辺とその北部）165 名（76.4%）、峡東（山梨市、甲州市周辺、笛吹市周辺）26 名（12.0%）、富士東部（富士五湖周辺）19 名（8.8%）、峡南（増穂、市川三郷以南）6 名（2.8%）でした。

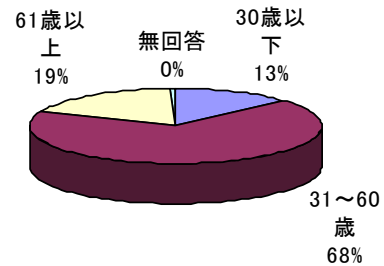


図1. 年齢層 (N=216)

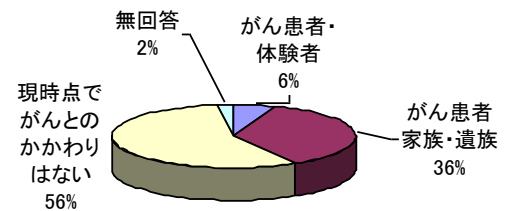


図2. がん医療とのかかわり (N=216)

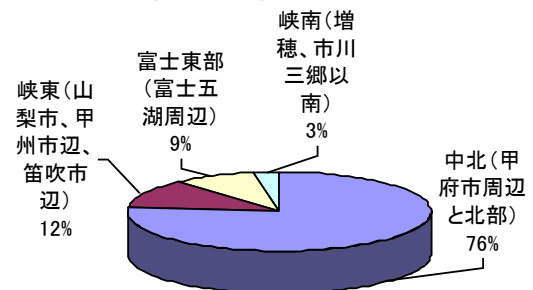


図3. 回答者の居住地 (N=216)

## 2. 山梨県のがん医療への認識

### 1) がん診療連携拠点病院を知っているか

216 名の回答者のうち、「がん医療とのかかわり」および「がん診療連携拠点病院を知っているか」の問いに無回答であった 6 名を除いた 210 名の結果を図 4 に示しました。

がん診療連携拠点病院を「知っている」と回答したのは全体で、64 名で 29.3%、「聞いたことはある」は 33 名で 15.3%、「まったく知らない」が 118 名 54.6%と最も多い結果でした。全体では、実際に県内のがん拠点病院を知っているのは 3 割のみ、聞いたことはある 2 割のほか、半数はまったく知らないと回答しました。

さらに、がん患者・体験者は 8 割以上が知っていたのに対して、がん患者家族・遺族では 3 割程度、さらに一般市民（現時点のところがん医療とかかわりが無い方）121 名のうち、知っていたのは 2 割に満たないという結果でした。実際にがん診療や治療で通院し

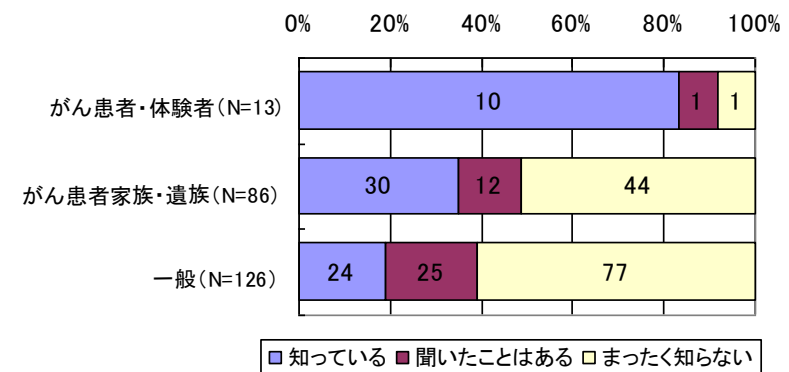


図4. がん診療連携拠点病院を知っていますか

ている患者本人は知っているが、その家族、一般となると極端にがん診療連携拠点病院の存在を知るものの割合は少ないことが示されました。

ある日突然がん家族や家族の立場になりうる一般市民の 6 割以上が、県内のがん診療連携拠点病院の存在を知らないという現状は、県内のがん医療の実態への関心の低さが示されたとも言えるでしょう。

## 2) がんを心配したとき、どこの病院へ行くか

がんを心配したとき、どこの病院へ行くか、自由回答で尋ね、集計した結果を図 5.に示しました。

回答者全体で、がんを心配したとき行くであろう病院として県外（東京や静岡など）の医療施設を選択したのは 37 名で、全体の 17.1%でした。1) の回答からは山梨県内のがん医療の実態への関心の低さがうかがわれましたが、県外を選択した方は 2 割以下に留まりました。したがって、それ以外の 8 割は県内の病院を受診するつもりであることを報告しました。もっとも多かった施設は、全体では、県立中央病院 97 名（回答者数の 45%）、次いで山梨大学病院 68 名（31.6%）、次いで市立甲府病院 23 名（10.0%）、が続きました。

更に、がんとかかわりごとに見てみると、県外医療施設を選択した割合が患者・体験者のみやや低いものの、いずれも 1 割から 2 割程度でした。そのうち患者・体験者の 65%、家族・遺族および一般も半数は、県立中央病院と山梨大学病院、山梨厚生病院の現在（2009 年 11 月現在）のがん診療連携拠点病院を選択していました。

山梨県は東京や静岡に近く、通院可能であるために、県民の県内の医療環境への関心が低いのではないかと議論されることがあります。しかし、今回の結果では 8 割は、がんを心配したときには県内の医療施設を受診したいとの結果であり、どのような要望を持っているのか、報告いたします。

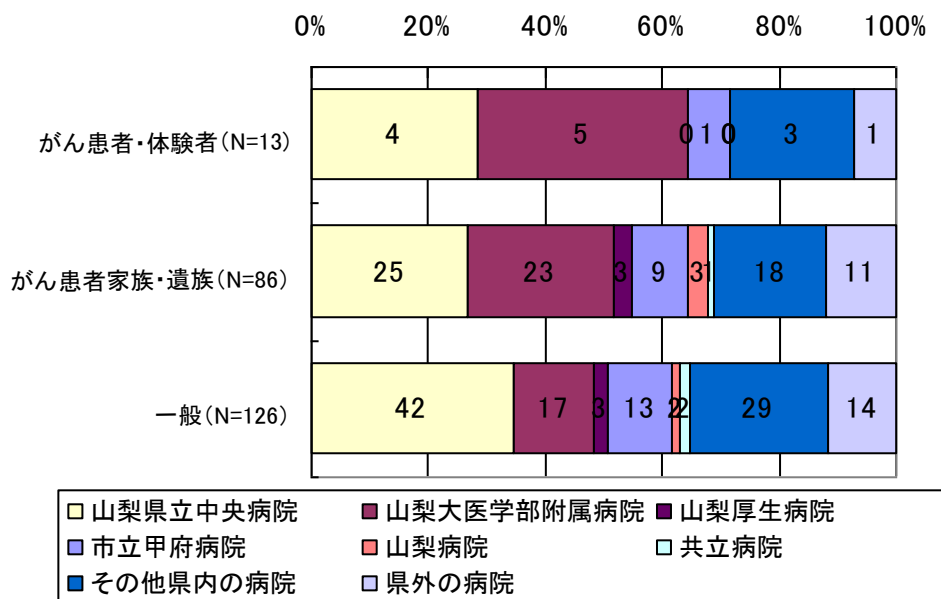


図5. がんを心配するときに行くであろう病院は？

### 3) 山梨のがん医療に望むこと

山梨のがん医療の望むことを自由記述で尋ねた結果は、全体では図 6-1 によるになりました。全体では、37名（16%）がもっとも多く、医療の内容充実を望んでいました。続いて検診の充実 26名（11%）、情報充足 26名（11%）、相談の場・心のケア 16名（7%）、医療費 12名（5%）等でした。

さらに、これらの要望を、患者・体験者、家族・遺族、一般の3つのがん医療とのかかわりの立場ごとの要望を図 6-2 に示しました。患者・体験者は8割が内容選択をしたのに対して、家族・遺族は6割程度、一般は約半数のみであった。実際のがん医療を利用する立場になって多くの不備に気がつき要望が出てくるが、実際、家族や遺族、一般の場合には、ぴんとこないためか想像しがたく無回答が多かったのではないかと考えられました。

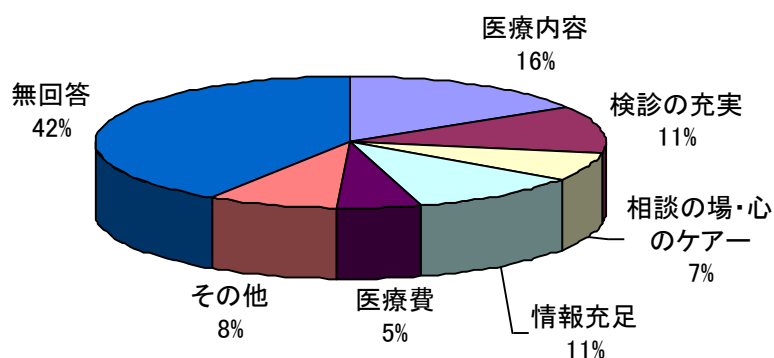


図6-1. 山梨のがん医療に望むこと(全体N=230)

がん患者・体験者が多く要望していたのは、医療内容の充実が 30%で最も多く、医療費をなんとか負担軽減してほしい旨の内容が続きました。一方、一般は、医療内容、検診の充実、情報充足、そして相談の場・心のケアの3つが同等に要望されていました。

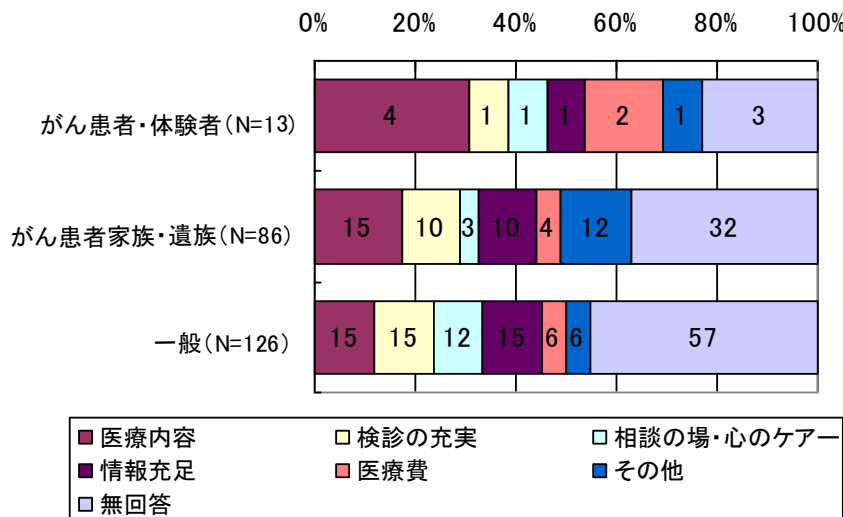


図6-2. 山梨のがん医療に望むこと(N=225)

### 3.まとめ

以上より、今回の 230 名のアンケート調査結果では、もしがンを心配するような時には、8 割以上の方が山梨県内の医療施設で治療を受けることを望んでいた。しかし、特に現在がん医療とかかわりのない一般の方々は、拠点病院を知る方が 2 割程度で、十分に情報が行き届いていないことが示されたといえます。また、一般の方は、医療充実はもちろんのこと、情報、検診の充実、心のケアを望んでいることが示されました。

これらのニーズに応えるかたちで、山梨県のがん医療環境の充実にむけて、今後も活動を続けていきたいと考えております。